

平成 31 年度 森林総合監理士育成研修事業

- 1 日程・研修場所 令和元年11月13日（水）～11月15日（金）
研修会場四国森林管理局会議室（高知県高知市）
現地実習朴ノ川山国有林3208林班ほか（高知県須崎市）

- 2 研修受講者数：12名 [男性：9名 女性：3名]

（県職員8名、森林管理局職員4名）

山口県	1名	徳島県	1名	香川県	1名	愛媛県	2名	高知県	1名
福岡県	1名	熊本県	2名	森林管理局	3名				

途中欠席者数 0 名

3 研修実施概要

○研修運営状況、研修生の様子など

・ 1日目は開構式の後、班内で自己紹介をし、次に砂田講師から動画によるヒノキ・スギ材のCLT製造状況、B材が主原料のCLT製造への経緯とヨーロッパにおけるCLT生産状況の説明、続いて局講師から架線系集材システムの講義と、管理局内に設置された集材模型による集材実習を行いました。

・ 2日目は班ごとに現在集運材作業箇所である須崎市朴ノ川山国有林での集運材システムの検討に続き、現地において各班で検討した集運材案の現地照合・検討、及び須崎森林組合による搬出系統等の説明と採材の実習に取り組みました。

・ 3日目は前日の現地実習地を対象に架線系を中心とした集材システムの検討・とりまとめ、及び各班のとりまとめ結果に対する質疑応答・講評で本研修を終了しました。

・ 全体としては①川上から川下に至る木材製品の流れにおけるCLTの位置づけ②供給側の集材システム、特に四国山間部の急傾斜地における架線系による集材システムといった地域特性を持った供給技術の知見拡充が図れた研修となりました。

○今回の研修の工夫点

・ 四国、特に高知県における集運材システムで索張りの多様性と高度な運用技術が必要な架線系は重要な位置を占めている。短期研修でその本質に迫るために今回は電動索張りシステムによる操作実習という実体験を取り入れた研修により一定の効果を得ることができました。

・ 森林GISと架線設計計算（エクセル）による安全率、垂下比等の算出により、架線設定が効率的に行うことができました。

4 記録写真



砂田社長の講義
(1日目)



集材模型による操作実習
(1日目)



集材システムの現地説明
(2日目)



机上で検討した搬出系統の現地検
証 (2日目)



現地にて採材研修
(2日目)



集材架線システムの検討結果の発
表 (3日目)